

想像豊かに読む力を育む学習指導の工夫 ～低学年における文学的文章の読みと伝え合う活動を通して～

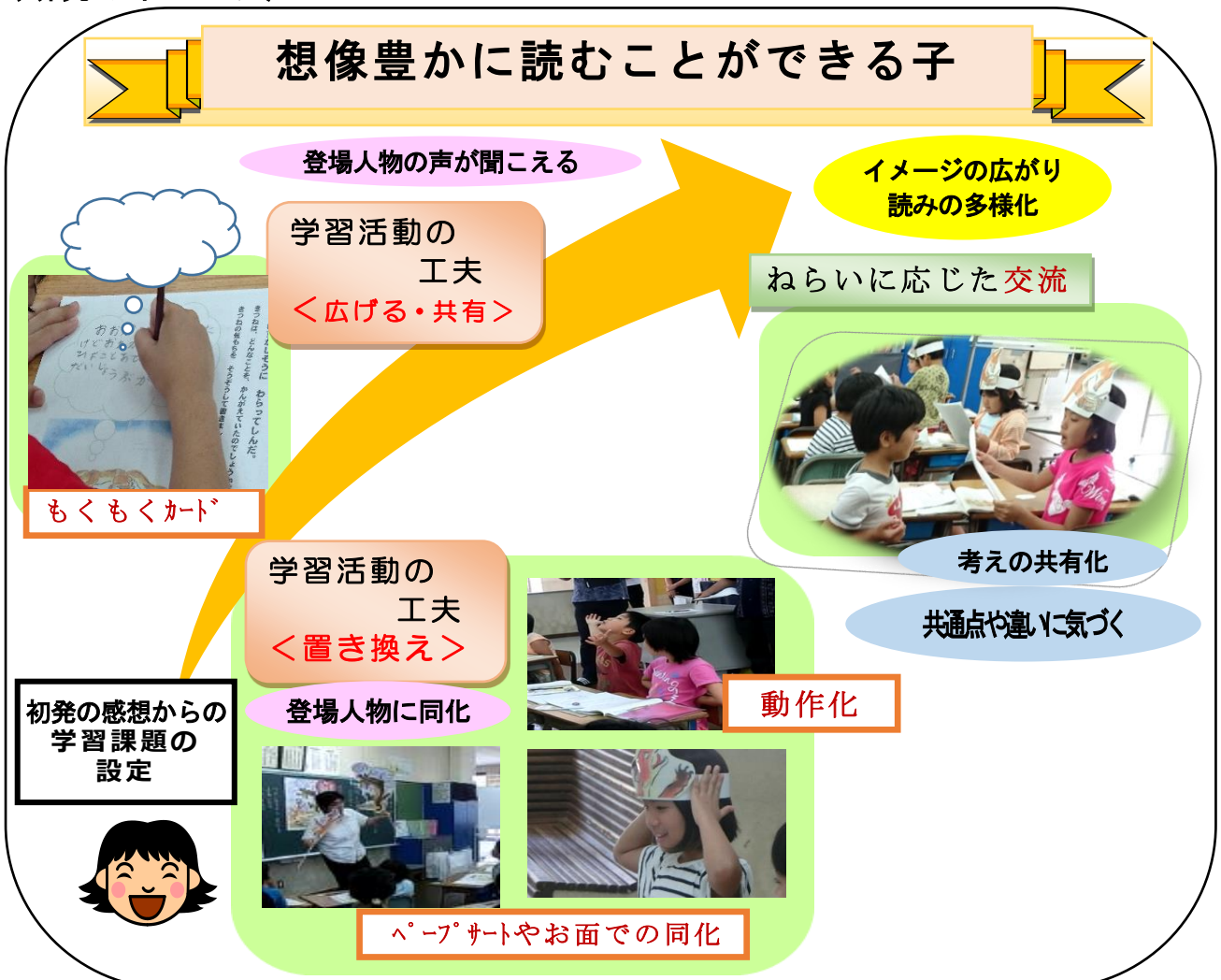
那覇市立大道小学校教諭 諸喜田 峰子

〈研究の概要〉

新学習指導要領の小学校国語科第1学年及び第2学年の目標では、「順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う」「人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを持つ」とし、思考力・判断力・表現力の育成という視点から、学習過程の質的改善が必要だと考え、想像豊かに読む力を育むために、低学年における文学的文章の読みと伝え合う活動について検証を行った。

その結果、文学的文章を読む過程において、気持ちの変化が分かる言葉や登場人物の行動に着目し、イメージを広げて読むための学習活動の工夫を行うことで、登場人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取ることができた。また、読みを深める場において、ねらいに応じた交流を設定し、登場人物に同化させることで、意欲的に伝え合い、互いの感じ方や考え方を共有することができた。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	2
V	研究内容	2
	1 「想像豊かに読む力」について	
	(1) 想像とは (2) 新学習指導要領における「想像豊かな読みの力」	
	(3) 低学年における「想像豊かな読みの力」	
	2 指導の手立て	
	(1) 読みの手立てについて (2) 伝え合う活動について	
VI	授業実践（第2学年）	4
	1 単元名「くり返しのあるお話のすすめ会をしよう」	
	2 単元目標	
	3 単元の指導計画	
	4 本時の学習 (1) 本時の目標 (2) 授業仮説 (3) 本時の展開	
VII	結果と考察	6
	1 作業仮説(1)の検証	
	【結果】(1) 「場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目する」について	
	(2) 「イメージを広げて読むための学習活動（動作化等）の工夫」について	
	(3) 「イメージを広げて読むための学習活動（もくもくカード）の工夫」について	
	【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証	
	【結果】(1) 「ねらいに応じた交流の場を設定し、登場人物に同化させる」について	
	【考察】	
VIII	成果と課題	8
	1 成果	
	2 課題	

<主な引用文献と資料>

想像豊かに読む力を育む学習指導の工夫

～低学年における文学的文章の読みと伝え合う活動を通して～

那覇市立大道小学校教諭 諸喜田 峰子

I テーマ設定の理由

現行学習指導要領の実施から10年を迎えようとし、平成29年3月、新学習指導要領が告示された。今回の改訂で小学校国語科の目標は、(2)「人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」こと、それを受け、第1学年及び第2学年の国語科の目標では、(2)「順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う」「人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを持つ」とし、思考力・判断力を養うことや適切に表現する能力等を育むことを位置づけている。

本校における、全国学力・学習状況調査(H28)の結果によると、「登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えること。」を計る活用問題に課題が見られた。また、本学級で行ったアンケートでは、「国語の学習が好きである」児童は80%で、特に読書への関心が高く、絵本等を好んで読んでいる児童の姿がうかがえた。ところが「文学的文章を読むことが好きである」児童は60%、「想像しながら読むことができる」児童は60%の結果が見られ、読書への関心は高いが、自分なりのイメージを広げて読むことに課題があることが分かった。

これまでの授業実践を振り返ると、児童は登場人物の性格などを大まかに捉えることはできるが、人物の行動や気持ちの変化、情景描写などに着目して、想像豊かに読み深めることが十分ではなく、その手立てや学習指導の工夫に課題が残った。

そこで本研究では、場面の様子や人物の言葉、行動に着目させ、学習活動の工夫を行い、読み取ったことや考えたことを互いに共有し合わせる交流の場を設定することが、想像豊かに読む力の育成につながると考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

想像豊かに読む力を育む学習指導の工夫として、場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目し、人物の気持ちについて自分の考えをもち、思いや考えを伝え合う活動を中心に、第2学年の文学的文章を通して実践的に検証する。

III 研究仮説

1 基本仮説

文学的文章の学習において、場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目して学習活動の工夫を行い、登場人物の気持ちについて自分の考えを交流する場を設定することで、想像豊かに読む力を育むことができるであろう。

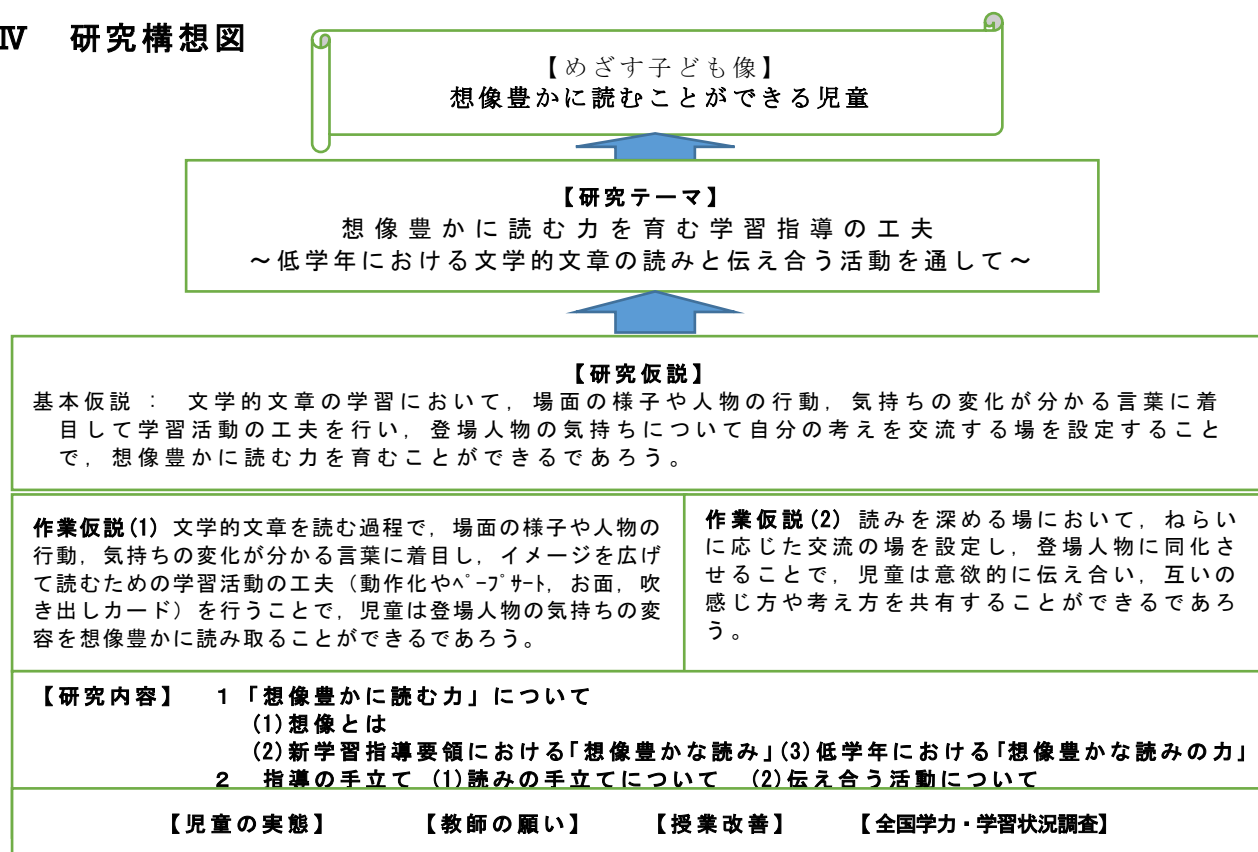
2 作業仮説

- (1) 文学的文章を読む過程で、場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目させ、イメージを広げて読むための学習活動の工夫（動作化やペーパーサート、お

面、吹き出しカード)を行うことで、児童は登場人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取ることができるであろう。

- (2) 読みを深める場において、ねらいに応じた交流の場を設定し、登場人物に同化させることで、児童は意欲的に伝え合い、互いの感じ方や考え方を共有することができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 「想像豊かに読む力」について

(1) 想像とは

これからの時代に求められる国語力について文化審議会(平成16年2月3日)では国語力の中核をなす能力として、考える力・感じる力・想像する力・表す力の4つをあげ、想像する力の重要性を指摘している。同答申では、「想像する力とは、経験していない事柄や現実には存在していない事柄などをこうではないかと推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力である。」と述べている。また、内田(2011)は、「『想像しながら読むこと』は、言葉、文、文章に立ち止まり、または絵や写真を見て想像を膨らませながら読み取っていく活動である。どの表現から、どのような情景や人物像を思い描いているのかを交流しながら読み進めていくことが大切である。」と述べている。本研究においては読みの手立てとして、登場人物に同化させるためにペーパーパートやお面の活用、キーワードになる言葉の動作化、視覚的に言葉をとらえるためのイラスト化、吹き出しカード(「もくもくか

ド」)等を取り入れることで、児童の想像を広げて読む力を育みたいと考える。

(2) 新学習指導要領における「想像豊かな読みの力」

文章を正確に読むことと同時に、文章表現から想像豊かに読むことは、大切な能力の一つである。新学習指導要領における文学的文章「読むこと」の各学年の目標、及び指導内容について系統的にまとめた。(表1)

表1 新学習指導要領各学年の目標と指導内容【筆者作成】※思考力・判断力・表現力にかかる(2)目標のみ記載

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目 標	(2)順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを持つことができるようにする。 (※(1)(3)は省略)	(2)筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	(2)筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
内 容	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 (※ア・ウは省略)	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 カ 文章を読んでまとめて意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(3) 低学年における「想像豊かな読みの力」

新学習指導要領解説(小学校国語編)によると、第1学年及び第2学年における文学的文章の精査・解釈(表1網掛け)においては、「場面の様子に着目するとは、登場人物の行動を具体的に想像する上で、物語の中のどの場面のどのような様子と結び付けて読むかを明らかにすることである。登場人物の行動を具体的に想像するとは、着目した場面の様子などの叙述を基に、主人公などの登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりすることである。」と述べている。本研究では、「場面の様子」や「登場人物の行動」に着目させ、その言葉や文からイメージをもたせるための学習活動の工夫を行い、登場人物の気持ちを想像する学習展開を実践する。

2 指導の手立て

(1) 読みの手立てについて

青木(2017)によると、「低学年の段階では、言葉を丁寧に押さえ、一つの言葉がどのような意味なのか、そこで説明されている内容が、どういうことを表しているのか、などを実感していく授業づくりが大切である。」と述べ、低学年の読みの手立てとして、『置き換える』という活動を取り入れている。また、吉永(2002)によると、「書くという場を得て、真剣に考える。書きながら考えを整理したりまとめたりする。あるいは、書いた後も推敲したり、考えを交流するというように多彩な活動が生まれる。」と述べ、読みのための書く活動を重視している。そこで、児童が想像豊かに読むための手立てとして、「置き換え」、読み取ったことを広げ、共有するための「もくもくカード」「ワークシート」を実践することにする。(表2)

表2 想像豊かに読むための手立て(低学年)【筆者作成】

関係図	置き換え				広げる・共有	
	同化	動作化	イラスト化	表	もくもくカード	ワークシート
登場人物相互の関係や思いが分かる	ペーパートやお面を使うことで登場人物になりきる。	キーワードになる言葉や文を身体で表現し、身体で言葉を感じる。	視覚的に言葉をとらえることで、理解がしやすい。	上下二段の表の形に整理して、比べやすくなる。	想像した心理や心情を、登場人物に語らせながら会話文で表現できるので、想像がふくらませやすい。	学習のめあてに沿って書くことで、読みの広がりと深まりを育てる。

(2) 伝え合う活動について

日本国語教育学会(2015)によると、「『伝え合う力』とは、人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力である。さらに、伝え合いの中でやりとりされる対象を評価し合いながら言語活動を進めることが交流という活動である。」と述べている。本研究では、ねらいに応じた交流活動の場を設定する。ペア交流では、ワークシートやもくもくカードに書き込んだことを2人組で伝え合うことで、互いの考えが確かめられ、広げられる。また、ペアということで短時間でかつ安心感も得られる。全体交流では、自分とは別の見方や感じ方、考え方を知ること、考えをを深めたり、修正する場になり、考えの共有化が図られる。そのことで、自分自身のイメージが広がり、自分の考えや読みを多様にしていくことが期待できる。(図1)

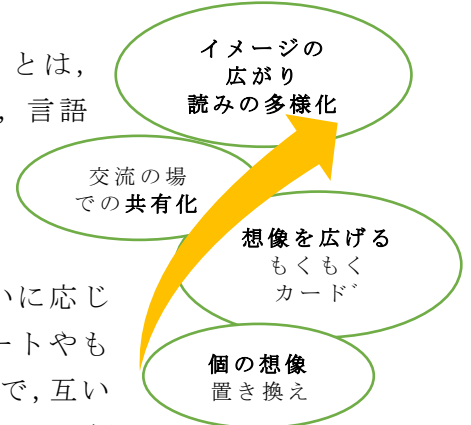


図1 交流までの流れ【筆者作成】

VI 授業実践(第2学年)

- 1 単元名 くり返しのあるお話のおすすめ会をしよう
教材名「きつねのおきやくさま」
- 2 単元目標 くり返し出てくる言葉に気をつけて読みくり返しのある話を紹介する。
- 3 単元の指導計画

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目(方法)	読みの手立て
第一次	1	・全文を読み、初発の感想を書く。(心に残ったところや不思議に思ったところ)	・児童の感想から問いを立て想像を広げながら読み進める中で、自分の考えがどう変容していくのかを見取る。	【関】・視点をもって感想を書いている。 ・学習の見通しをもつことができる(観察)	
	2	・単元のゴールを確認し、学習の見通しをもつ。(教師の読み聞かせを聞く・並行図書)	・単元のゴールを確認させることで、学習の見通しをもたせる。 ・教材文の関連として並行図書を紹介する。		
	3	・全文を読んで、物語の大体をつかむ。	・出会う人物ときつねのしたことを確認する。	【関】・物語の大体をつかみ、学習のめあてをもつ。(発言 観察)	登場人物の紹介 ◎置き換え ・イラスト化 ・関係図
	4	①登場人物の確認 出来事等 ②あらすじをまとめる。	・アニメーションゲームでお話のあらすじを捉えさせ、お話の全体構造を知る。		
	5	③くり返し箇所の確認	・繰り返される部分と少しずつ変わっていく部分を見つけさせる。	【読む】・工夫して音読している。(観察)	◎置き換え ・表の活用 ◎置き換え ・動作化
	6	・場面の分け方を知り、音読の印を工夫して、音読する。	・場面分けをし、音読の印を工夫して、音読の練習をする。		
	7	第1の場面 ・ひよこを食べようと思ったきつね	きつねの気持ちの変化を読み取る(1～3の場面)	【読】・登場人物や中心人物のきつねの気持ちを読み取る。(発言・ワークシート)	登場人物の言葉や行動 サイトライン
	8	第2の場面 ・ひよこことあひるの会話を聞いたきつね	・「お兄ちゃん」「やさしい」という言葉を聞いたとき「少しぼうつとなった」きつねの行動に着目させ、きつねの気持ちを想像させる		

第二次	9	第3の場面 ・ひよこ、あひる、うさぎの会話を聞いたきつね	・「親切なきつね」と言われ、「うっとりした」「ぼうっと」なった時のきつねの気持ちを想像させる ・「かみさまみたい」と言われ、「うっとりしてきぜつしそうになった」「ぼうっとなった」時のきつねの気持ちを想像させる。	【書】・きつねの気持ちを想像し、もくもくカード [*] に書くことができる。（もくもくカード）	中心人物の気持ちを想像する ◎置き換え ・動作化 ・ペーパーサート ・お面 ・もくもくカード
	10	第4の場面 ・おおかみと戦う、きつねの様子や気持ちを考える。	・きつねがおおかみと戦った理由を考えさせる ・「ゆう気がりんりんとわく」「たたかったとも」等の叙述に着目させ、おおかみと戦うきつねの気持ちを想像させる。		
	11	第5・6・7の場面 ・おおかみを追い払った晩、死んでいくきつねの気持ちを考える。	・きつねが「はずかしそうにわらってしんだ。」理由を考えさせ、死んでいくきつねは、最後に動物たちにどんなことを伝えたかったのか想像させる。		
	12	・好きな場面の「おすすめカード」を作ることができる。	・おすすめカードには、好きな場面や理由、思ったことを書くよう支援する。	【書】おすすめカードを書くことができる。	
第三次	13	・「くり返しのあるお話」を読んでおすすめカードを作る	・「くり返しのあるお話」を紹介するためのおすすめカードを作成させる。 ＜視点1＞こんな「くり返し」見つけたよ ＜視点2＞おすすめの場面とその理由 ＜視点3＞こんな事を想像したよ	【書】・くり返しの言葉を手がかりに登場人物の変容を書くことができる。	
	14	・「くり返しのあるお話」のおすすめ会をしよう。	・くり返しのお話を選んだ思いを伝えさせる	【関】進んで本を紹介している	

4 本時の学習指導について

- (1) 目標 第4の場面のきつねの様子や行動に着目し、きつねの気持ちを想像しながら読むことができる（読むこと ウ）
- (2) 授業仮説 きつねの気持ちを考える場面において、気持ちの変化を表す言葉やきつねの行動に対して読みの手立てを用い、ねらいに応じた交流活動を設定することで、きつねの気持ちを想像豊かに読み取ることができるであろう。
- (3) 本時の展開（第10時）

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目
導入 3 分 展 開 3 分 ま と め 5 分	1 前時までの学習をふりかえる。	○前時の学習から、ひよこたちに「やさしいお兄ちゃん」「親切なお兄ちゃん」「かみさまみたいなお兄ちゃん」と言われたときの、きつねの様子や気持ちの変化を想起させる。	
	2 本時のめあてを知る。 3 第4の場面を音読する。 ・守りたい・助けたいから 4 おおかみと戦う、きつねの様子や気持ちを考える (1) きつねの気持ちが表われている文章にサビラインを引く	なぜ、きつねは、おおかみと戦ったの。 ○きつねの様子や気持ちを想像しながら、音読させる 「きつねは、なぜ、おおかみと戦ったのだろう。」という問いを持たせる。 ○きつねが、今までの繰り返しの中で、3人により言葉をかけられていたことを押さえる。 ○「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」は誰の言葉なのかを確かめ、おおかみに見つかったのではなく、きつねが自分から飛び出したことに気づかせる。（置き換え・動作化） ○「ゆうきがりんりんとわく」「いさましかった」や繰り返しの叙述に着目させ、戦うきつねの様子を読み取らせる。（置き換え・動作化やペーパーサートの活用で登場人物に同化） ○挿絵を使って、おおかみときつねの大きさの違いを比較しながら、場面の様子を想像させる。 ○児童との対話を通し、意見やつぶやきを引き出し板書する ○想像しながら自分の言葉でもくもくカードに書くようにする ○ペアになり、想像したきつねの気持ちを相手に伝えさせる その際、聞いた相手側からも簡単な言葉を返させることで、今後の学習につなげるようにする。（置き換え・お面の活用で登場人物に同化させる。） ○いろいろな感じ方や表現があることを知る。	【読】 ＜概ね満足＞ きつねの行動に着目しながら読み、おおかみと戦うきつねの気持ちを想像することができる。 ＜十分満足＞ きつねの行動に着目しながら読み、おおかみと戦うきつねの気持ちをくわしく想像することができる。
	・「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」言うなり、きつねはとび出した。 ・ゆうきがりんりんとわいた ・おう、たたかったとも ・いさましかった		
	(2) きつねの気持ちを、もくもくカードに想像して書く。 (3) 友だちと考えを交流する ・ペア・全体		
	5 第4の場面を音読する。 6 本時のまとめをする	○本時で想像したことを視点に入れながら音読させる。 ○きつねの気持ちの変化を押さえる。	

VII 結果と考察

1 作業仮説の(1)の検証

文学的文章を読む過程で、場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目し、イメージを広げて読むための学習活動の工夫を行うことで、児童は登場人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取ることができるであろう。

【結果】

(1)「場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目する」について

第1時の児童の初発の感想から、「なぜ、きつねはひよこたちを食べなかったの？」等の問いを学習課題として設定し、中心人物の心情を読み取る学習過程を取り入れ単元を構成した。そこで、中心人物のきつねの気持ちの変容を想像豊かに読ませる工夫として、気持ちの変化が分かる言葉や中心人物の行動に着目させた。児童のワークシートからは、第7時、第8時、第9時と学習を重ねるごとに、ひよこ達のことばやきつねの行動に着目させることで、想像を膨らませている記述やきつねに対して少しずつ見方が変わっていく記述も見られた。(表3)

表3 言葉に着目して、中心人物の変容を想像豊かに読み取るM児（第7時から第9時）

時	気持ちの変化が分かる言葉 (教科書から)	中心人物の行動 (教科書から)	児童が想像したこと(もくもくカードから)
7	「やさしいお兄ちゃん」	ぼうっとした	やさしいなんて、照れるじゃないか。 なんだかうれしいなあ。
8	「親切なお兄ちゃん」	うっとりして ぼうっとした	ひよこことあひるを食べるつもりなのに親切と言われちゃどうしよう。いい気分だ。
9	「神様みたいなお兄ちゃん」	うっとりして きぜつしそうになった	神様だなんて、こんな気持ち初めてだぜ。 どんどん家族がふえていくみたいだ。

(2)「イメージを広げて読むための学習活動(動作化ペープサートお面)の工夫」について

第10時では、おおかみと戦うきつねの様子や気持ちを考えさせるために、登場人物の行動に着目させサイドラインを引き、言葉や文を一つ一つ丁寧に押さえた。また、動作化やペープサートによる置き換えを読みの手立てとして取り入れたところ、児童は叙述を基に、自分なりに想像を豊かに広げることができた。(表4)

表4 戦うきつねの様子から想像を広げている児童の様子

本文 きつねのからだにゆうきがりんりんとういた。

T : 「ゆうき」って、どんな時にわいてくるのかな。

C1 : ゆうきって、強い者から弱いものを守るときに体中から出る力だよ。

C2 : 体だけではなく、心の中からも守りたい・助けたいという力がわいてくるかも。



[動作化]

児童は、「**勇気**」という言葉、これまでの**経験**をもとにとらえている。

「**勇気が**りんりんとうく」という文を押さえることで、きつねの内面を想像することができた。

動作化(置き換え)をすることで、身体で言葉(勇気)や本文を感じている。

本文 たたかったとも たたかったとも

T : どんな戦いだったのかな？

C3 : 激しい戦い

C4 : 迫力があつたと思う

C5 : 長い時間戦った

[ペープサートでさらに想像を広げる]

C6 : やられても やられても

C7 : 何度も起き上がっては

C8 : 体中で体当たりするぐらい激しい



児童は、挿絵をもとに「きつねとおおかみの戦い」を想像している。

ペープサートでの同化(置き換え)を手立てとすることで、児童は登場人物になりきり、きつねが3人を必死で守る様子をイメージ豊かに想像することができた。

(3)「イメージを広げて読むための学習活動(もくもくカード)の工夫」について

動作化やペーパーパートによる置き換えで、児童一人一人の想像を広げ、想像豊かに読み取ったことを吹き出しにして書く活動「もくもくカード」を手立てとして取り入れたところ、全児童が「守る・助けたい・友だちだ」という言葉で、きつねの気持ちの変容を想像して、自分の考えを表現することができた。(表5)また、「もくもくカード」を活用することで「お話を想像しながら読むことができますか。」という質問では、「できる」と答えた児童が授業前後で60%か86%へと26ポイント増え(図3)、「登場人物の心の声がよく聞こえた」「きつねの気持ちがどんどん浮かんだ」等の児童の意見が挙げられた。

表5 想像豊かに読み取った児童の考え

A児：おまえに、そうかんたんにひよこ達を渡してたまるか。 <u>3人を守るんだ</u> 。おれは、おまえに負けない。勝つ心を持っているんだ。負けてたまるか。
B児：ひよことあひるとうさぎを <u>守るぞ</u> 。おかみなんか怖くない。いくぞ。
C児：おい、おかみ。おれの友だちを食べようとしてるのなら、そうはさせないぞ。 <u>ひよこ達は、おれの友だちだ</u> 。
D児： <u>ぜったい3人を守ってやる</u> 。おれの命にかえても・・・

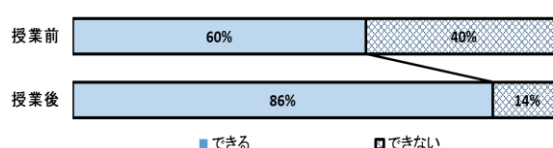


図3 お話を想像しながら読むことができますか

2。

【考察】これらのことから、児童が中心人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取っていることが分かる。また、全児童が想像豊かに自分の考えを書くことができたことやM児のワークシート(表3)の変容などから、読みの手立てを通して本文にしっかり向き合わせ、学習活動の工夫をすることで、人物の気持ちの変容に気付くことができたと思われる。更に、想像豊かに読み深めたことから、第10時の学習後は、声の大きさや強弱を工夫し、登場人物になりきって手振り身振りしながら音読していた。よって、児童が登場人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取るには、登場人物の言動に着目させて、学習活動の工夫を行うことは有効であると考えられる。

2 作業仮説の(2)の検証

読みを深める場において、ねらいに応じた交流の場を設定し、登場人物に同化させることで、児童は意欲的に伝え合い、互いの感じ方や考え方を共有することができるであろう。

【結果】「ねらいに応じた交流の場を設定し、登場人物に同化させる」について

各授業の交流場面において「自分の考えを伝え、広げる」「感じたことや分かったことを共有し、考えを深める」のねらいのもと、交流形態を工夫する手立てを行った。その結果「考えや感想を伝えることができますか」(図4)という質問では、本単元に取り組み後「よくできる」「できる」と答えた児童が46ポイント増えた。また、ペア交流ではお面を付けて登場人物に同化させ、自分の考えを伝えさせたところ、友だちの発表の良さを認め、考えに感想を述べる児童も見られた。更に、第11時の学習課題「なぜ、きつねは、はずかしそうにわらって死んだの?」において、「共通点や違いに気づく」というねらいのもと、全体の交流活動を行った。全体交流(表6)では、児童が自らの考えを伝え合うだけでなく、互いの考え方に耳を傾け、違う考えにも共感する姿が見られ児童のイメージがより広

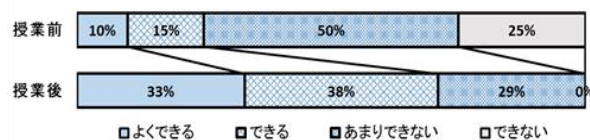


図4 考えや感想を伝えることができますか

がる場面が見られた。また、抽出児 R (図 5) の第 1 時の初発の感想 (きつねは死んでかわいそう) が第 11 時には、勇敢でカッコいい等中し心人物の捉えかたに変化が見られた。

表 6 第 11 時の全体交流の場での児童のやりとり

きつねがはずかしそうにわらって死んだ挿絵をみながら	
N 児：	ぼくは、はずかしそうにわらって死んだは、きつねは、おおかみを倒して 3 人を守ったけど死んだ姿を見せたからはずかしかったということだと思う。
S 児：	ぼくも、きつねは 3 人の前で死んじゃったから、きつねと男らしくなかったなあという気持ちからはずかしかったと言ったと思う。共通点に気づく
R 児：	ぼくは、ちょっと違うよ。最初きつねは 3 人を食べようとしていた。そのことがはずかしいよ。でも、3 人から良い言葉をたくさんもらったから、もういいんだ。だから、きつねは死んでかわいそうではなく、3 人を守ったから、カッコいいし、とても勇敢だよ。考えの共有化
K 児：	すごい。色々な考えがあるんだね。

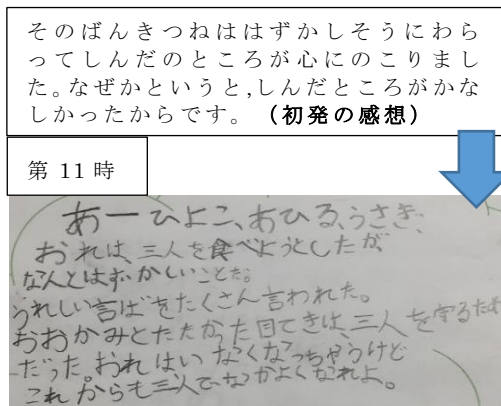


図 5 抽出児 R の初発の感想と第 11 時の考え

【考察】これらのことから、児童が意欲的に交流し、伝える力が付いてきたと思われる。また交流活動の様子から、登場人物に同化させ、ねらいに応じた交流を設定することで、児童一人一人が自分の考えを持ちながら多くの意見に触れ、共有する姿も見えてきた。よって、児童が意欲的に伝え合い、互いの感じ方や考え方を共有するには、登場人物に同化させねらいに応じた交流を設定することが有効であると考えられる。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 文学的文章を読む過程で、場面の様子や人物の行動、気持ちの変化が分かる言葉に着目し、イメージを広げて読むための学習活動の工夫を行うことで、児童は登場人物の気持ちの変容を想像豊かに読み取ることができた。
- (2) 読みを深める場において、登場人物に同化させ、ねらいに応じた交流の場を設定することで、児童は意欲的に伝え合い、互いの感じ方や考え方を共有することができた。

2 課題

- (1) 交流の場で、友だちの異なる考えや意見をどう効果的に取り入れまとめていくかを工夫する必要がある。
- (2) 交流活動を効果的に行うためには、今後、単元のねらいに沿った交流形態を工夫する必要がある。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	東洋館出版	2008
『フレームリーディングでつくる国語の授業』	青木伸生	東洋館出版	2014
『文学教材を楽しくする授業のヒント』	石田佐久馬	東洋館出版	1991
『交流』	日本国語教育学会	東洋館出版	2015